



届ける安心 広がる笑顔 生まれる信頼 JAあいら

2013

4

April

No.252

あいら

▶トピックス…JAあいら合併20周年を祝う 他



*詳しくは15ページに掲載

JAあいら合併20周年を祝う

JAあいらでは、合併20周年を祝う式典を2月22日、溝辺町のかごしま空港ホテルで開催し、行政やJA関係者など約130人が出席しました。

式典では、霧島の郷土芸能の霧島九面太鼓でオープニングを祝ったのち、砂田久巳前組合長など、JAあいらの発展に尽力のあった関係者12名に感謝状が授与されました。

この後、JAあいらの樋脇建治組合長が「平成4年3月に10JAの合併により誕生したJAあいらは、20周年を迎えることができました。これも組合員や地域住民の方々によるご指導やご協力があったからこそ。これからもお力添え願いたい」とあいさつしました。



オープニングを飾った霧島九面太鼓

功績者表彰は次のとおり（敬称略）

砂田久巳・田中清美・久徳みつえ・馬場恵津子・豊満 巖・福丸 司・享保 繁・橋之口 定・池上 昇・古川輝雄・宗像国徳・宝満章治・徳田敏昭



功績者表彰を受賞する砂田久巳前組合長 20周年式典で挨拶する樋脇建治組合長

アンパンマンがやってきた!!

子どもたちに人気のアンパンマンが子どもたちを交通事故から守ろうと2月2日、隼人町の始良中央家畜市場前広場にやってきました。

アンパンマン交通安全キャラバンは、午前と午後の2部構成で行われ、約1100人の家族連れがアンパンマンとのふれあいを楽しみました。

JAあいらでは、少子高齢化の中で生まれてくる子どもとお母さんを応援する地域貢献活動として「こどもくらぶ」を立ち上げ、育児サポートや交通安全啓発などを行っており、今回のアンパンマンショーも「こどもくらぶ」の一環として行われたものです。

ステージ上で、アンパンマンやドキンちゃんなど、おなじみのキャラクターが登場し、交通ルールの大切さやマナーを呼び掛けると、子どもたちは目を輝かせて歓声を上げていました。また、ショーの最後にアンパンマンの目覚まし時計などが当たる抽選会も行われました。



子どもたちといっしょに交通安全について学んだアンパンマンショー

霧島茶の銘柄確立へ前進

霧島市茶業振興会は2月8日、溝辺町のかごしま空港ホテルで定期総会を開催し、茶業関係者など、約80人が出席しました。

平成25年度の事業計画には、霧島茶の銘柄確立に向けた生産基盤や振興会活動の強化などを盛り込んだ4議案が承認されました。

役員会の改選では、溝辺町の蔵園和寛さんが再任されたほか、副会長に東福健治さん（牧園町）と中園真一さん（霧島市霧島）が選任されました。

また、平成24年8月に行われた荒茶求評会の表彰も行われ、最優秀賞の宇都口広明さん、優秀賞に上村勝己さんと堀ノ内齊さん（いずれも牧園町）が受賞しました。



会長に再任された蔵園さん

おいしくトマト食卓に届けます

今年も全国においておいしいトマトを届けようと、JAあいら国分園芸振興会トマト部会は2月12日、霧島市の霧島市役所前で「国分桃太郎トマトゆうパック」出発式を行い、JAや生産者など約50人が出席しました。

ゆうパックは、昭和63年に旧JA国分と国分中央町郵便局が提携しスタートしたもので現在、管内の郵便局132局で取り扱っています。

式では、今年で5回目となるかごしまの農林水産物認証書の授与が行われたあと、同部会の蔵元宏明部会長が「全国に安心安全でおいしいトマトを届けるため、生産者一丸となって頑張ってください」と決意表明し、関係者によるトマトジュースでの乾杯が行われました。

トマトは、近年の健康ブームで取り扱っても増加傾向にあり、部会でも生産者9戸で約155ト（前年比20ト増）を計画し、2000ケースの出荷を見込んでいます。



出発式をトマトジュースの乾杯で祝う関係者



生産者によって郵便車両に積み込まれるトマト

ATM移転のお知らせ

霧島市溝辺総合支所設置のATMが4月3日よりJAあいら溝辺支店隣のAコープ溝辺店に移転します。

尚、移転作業に伴う工事のため、3月23日より4月2日まで当該設置のATMはご利用できません。御利用のお客様には、ご迷惑をおかけ致しますが悪しからずご了承ください。よろしくお願いいたします。



Aコープ溝辺店隣に移転します。

「全国農業コンクール」農林水産大臣賞受賞を祝う



長男の拓郎さんから花束で祝福される邊田さん

平成24年7月に島根県出雲市で開かれた「第61回全国農業コンクール」(毎日新聞社・島根県主催)の種芸部門で農林水産大臣賞を受賞したヘンタ製茶(有) (代邊田孝一さん)の受賞祝賀会が1月25日、牧園町の霧島ホテルで行われ、JAや行政など約160人が邊田さんの受賞を祝いました。

同コンクールは、日本農業の発展と地域の活性化を目的としたもので、栽培技術や農業経営などが評価されるものです。

邊田さんは、地元の霧島産の茶葉や水を使用した「シエーク・イット」の商品開発の創意工夫と農業経営が評価され、今回の受賞につながりました。

受賞した邊田さんは「霧島茶のファンを作るため、今後も霧島茶の質の向上を図っていききたい」と話していました。

魅力ある農業づくりに向け振興大会を開催



国分中央高校の生徒による発表

魅力ある農業環境を作り、農業を効率的に進めることで農業、農村の活性化を図ろうと、始良・伊佐地域農政推進協議会は2月13日、始良・伊佐地域農業農村振興大会「いざあいらぶ農村塾」を治木町の加音ホールで開催し、行政や農業団体など約250人が出席しました。

同振興大会は、始良地域と伊佐地域が共同で行う初めての大会で「地域の人が資源を活かし、農業・農村の活性化を！」がテーマに行われました。

事例発表では、霧島市牧園町の農事組合法人「イザナギ」による集落営農の法人化に向けた取組みや霧島市立国分中央高校園芸工学科の生徒による野菜栽培を通じた地域との交流など、4事例が発表されました。